

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)連昇庵新築工事	階数	地上3F
建設地	京都市西京区山田大吉見町6-5、6-7	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2018年7月24日
敷地面積	1,307.89 m ²	作成者	林 孝彦
建築面積	846.09 m ²	確認日	2018年7月27日
延床面積	2,022.85 m ²	確認者	溝口 誠



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 91%
③上記+②以外の 90%
④上記+ 90%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	適切に断熱の計画をすることで空調負荷を低減し、省エネルギーと外部環境に対する排熱の抑制に配慮した。また、修景地区の条例に沿った建築物とするとともに、地域産木材を用いた和室を計画するなど地域性も配慮した建築計画とした。	
その他		
Q1 室内環境	道路面に大きい面積を持つカーテンウォールを遮音性T-2の製品を使用する事で室内に雑音が入りにくいよう配慮した。また、外気に接する外壁、屋根、床には断熱材を設け、屋内の室温をできるだけ均一に保つよう配慮した。	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	外壁面に高性能グラスウール断熱材、屋根、及び外部に面する床に吹き付け硬質ウレタンフォームを使用。また、ガラス面にペアガラスを採用する事で建物の断熱性を高し、空調負荷の低減を図った。屋上緑化により太陽光の熱負荷を低減するよう配慮した。	LR2 資源・マテリアル
Q3 室外環境(敷地内)	ピロティ形式の敷地内駐車場を設ける事で、日影を通して室内へアプローチできるように配慮した。また、隣地境界線に沿って緑地を計画し、地表温度や地表付近の気温の上昇の抑制を図った。	LR3 敷地外環境
	建物の断熱性能を確保する事で、空調負荷を低減及びL C CO ₂ の低減をし、敷地外環境に配慮した。また、道路面のカーテンウォールに乳白フィルムを貼る事で周辺への太陽光の反射を軽減するよう配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される